

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
エンドオブライフケア学特論Ⅱ (EOL 実践と理論的基盤)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	長江弘子、足立智孝			
授業概要	住み慣れた地域で最期まで「自分らしく生きる」という生涯にわたる生と死の問題について、医学、看護学だけではなく、倫理学、哲学、法学、文学、歴史などを学びながら、生きる意味や Quality of Life について考察し、人間の尊厳や本質について学修する。地域の文化や規範と地域文化、社会規範の中で生きる人々の「生老病死」について考え、エンドオブライフケア実践の理論的基盤となる成人学習理論、臨床哲学、ナラティブ・アプローチ、意思決定理論などを適用し地域に特有な文化的視座に基づくエンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの存在意義について探求する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非がん患者のエンドオブライフケアの歴史的経緯と重要概念について説明できる 2. 疾患別・療養場所・年齢の違いに見るエンドオブライフケアの臨床的課題を整理することができる。 3. エンドオブライフケアの臨床的課題に対する方法論的アプローチについて学び、アセスメントと介入、評価について説明できる。 4. わが国の生活文化に即したエンドオブライフケアの諸理論(人間学、死生学、臨床哲学)を適用した対象理解の重要性を説明できる。 5. 公共政策的視座から生活行動や心理に影響を与える地域環境等の人的・物理的環境、地域とのつながりの歴史の影響について、説明できる。 6. エンドオブライフケアに関連する諸制度の現状を知り、政策的課題について検討しエンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの課題について説明できる。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1-2	我が国における非がん患者のエンドオブライフケアに関する動向を踏まえ、疾患別のエンドオブライフケアのエビデンスを学修する。	長江	
	3-4	エンドオブライフケアにおける治療やケアのエビデンスを踏まえ、家族を含めた意思表示支援(アドバンスケアプランニング)について学修する。	足立・長江	
	5-6	エンドオブライフケアにおける症状緩和・疼痛コントロールにおける治療やケアのエビデンスを踏まえ、家族ケア、チームアプローチについてナースプラクティショナーとしての実践について学修する。	長江	
	7-8	質の高いエンドオブライフケアとは何か、実践の構成要素を明確にし、ナースプラクティショナーの実践におけるチームアプローチ、組織的アプローチの方法について学修する。	長江	
	9-10	エンドオブライフケアにおけるグリーフケア、スピリチュアルケア、倫理的課題について検討し、ナースプラクティショナーとしてアセスメント、実践、評価のアプローチ方法を学修する。	足立	
	11-12	日本人の死生観や生と死をめぐる人々の価値観の変化および地域の課題を検討し、エンドオブライフケアを支えるコミュニティの意味を探求する。	足立	
	13-14	看護学の諸理論からエンドオブライフケアの本質や哲学的基盤について探求する。また将来に向けてプライマリケアとエンドオブライフケアとのつながりを深め、ナースプラクティショナーの役割を考察する。	足立・長江	
	15	各自の実践領域におけるエンドオブライフケアの方法論的アプローチとその成果や評価方法について事例をとおして探求し、地域や医療制度の在り方の視点から、エンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの課題を検討する。	足立・長江	
教科書				
参考書	平原佐斗司監修(2016):非がん患者のエンドオブライフケア、南山堂。長江弘子(2014):看護実践に生かすエンドオブライフケア、日本看護協会出版会。その他、必要に応じて紹介する。			
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討論の内容(50%)で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。			
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる			